

新スタジアムの需要推計手法について

2014.9.4

【概要】

- ・新スタジアムの需要推計においては、既存施設（エディオンスタジアム）よりも**アクセス利便性が向上し集客力がアップする効果**を検討した。なお、施設自体、イベント自体の魅力はこれまでと同一のものと想定した。
- ・具体的には、エディオンスタジアムにおける**居住エリア別の来場者数データ**を用いて**需要予測モデル（商圏モデル）**を作成し、これをもとに新スタジアムの需要推計を行った。
- ・なお、モデル作成にあつては、以下のデータを活用した
 - ・居住エリア別来場者数：大阪体育大学実施の観戦者アンケート調査結果を参考に、区別ファンクラブ会員数から設定
 - ・居住エリアからの移動費用：地図検索サイト「グーグルマップ」、交通検索サイト「ナビタイム」を活用して設定。なお、利用交通手段については、大阪体育大学実施の観戦者アンケート調査結果、「広島市交通実態調査（平成20年）」結果を活用

【需要予測手法】

- ・新スタジアム整備によって**各エリアからのアクセス利便性（移動費用）が変化し**、居住エリア別の来場頻度が変化するものと想定される。
- ・作成した需要予測モデル（下記参照）を用いて、新スタジアム（都心（中央公園、旧広島市民球場）および広島みなと公園）における居住エリア別の来場頻度を算出し、それに各エリアの人口を乗じることによって来場者数を算出、これらを合計することによって、新スタジアムの来場者数を推計した。

（新スタジアムへの居住エリア別の来場頻度）

$$= 0.0078610 \times \exp(-0.0006508 \times (\text{各居住エリアから現行スタジアムまでの移動費用}))$$

$$(R^2 = 0.9017687)$$

$$(\text{新スタジアムの来場者数}) = \sum ((\text{各居住エリア別の来場頻度}) \times (\text{各居住エリア別人口}))$$